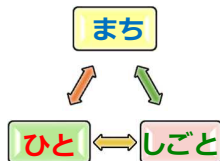


◆「まち・ひと・しごと」が、バランスの良い繋がりを築き、その関連性がスパイラルを繰り返し、循環型の成長と発展を継続する。



ゆりかごから墓場まで・・・安心



現状

- ◆ふじみ野市へ転入される多くの方は、住まいとしての利便性を求めながら、安心して生活ができる、コスパを求めて選んでいただいた人たちである。
- ◆ふじみ野市は、産業面では一部の大手企業や新興の大手流通系企業等に支えられた構造であり、既存の中小企業や商店街の元気に陰りが差し込んでいるかのように見える。

課題

- (1) 中小企業・商店街にかつてほどの元気がみられない
- (2) 企業誘致＝大手企業をあてにするだけ・・・という印象がある
- (3) 農業・商業・工業いずれのまちなのか？まちの特色が見えない
- (4) この街で起業する人の支援が十分とは思われない
- (5) 市の合併後、行政の一元化が完全に行われていない
- (6) コンパクトシティの魅力のひとつ、スピード感がまだ足りない

事例調査

【山梨県 大月市作成資料から抜粋】

	実施地域	事業名	人口	実施内容	ポイント
①	東京都 青梅市	近未来型中核的都市づくり基礎調査	142千人	☆豊かな自然環境の中で 住み・働き・学べ・憩える 中核的都市の実現☆既存ストックを活かしたコンパクトなまちづくり ☆ボランティア団体等の多様な主体がまちづくりに参画できる環境づくり	既設ストックを活用した整備案を検討する。
②	秋田県 五城目町	「朝市」と郊外大型店等との連携による、商店街・地場産業活性化モデル調査	12千人	中心市街地活性化の有効策として、これまでほとんど活用されていなかった、 対立軸にあった郊外大型商業施設等との協力関係づくり による活性化のモデル的チャレンジ	大型店との協力による中心市街地への集客を検討する。
③	山口県 下松市	市民住民による中心市街地の使い方や運用等の実地検証	53千人	長期間継続してまちづくりを進めているが、市民や地域住民の関心は中心市街地に向かず、街が利用されない現実がある。そこで 実際に使う人々の視点で、街の使い方、運用方法等を、現在の街や通りを使って試行し、自分達がこれから街へどう関わっていけるのかを実地検証する。	NPO法人を活用した継続的なまちづくり。ルールを作っても運用しなければ効果は出ない。その受け皿としてNPOを活用している。
④	鳥取県 米子市	米子・城下町の景観形成と拠点創造による賑わいのあるまちなか再生調査及び実験	149千人	<ul style="list-style-type: none"> ・米子・下町 賑わいのあるまちなか再生検討会議の開催 ・11/25:「第1回食のみやご祭in下町」を開催 じげ料理の伝承とまちかど広場、下町PRを目的として実施。約300以上が参加。 ・2/11:「食のみやご祭inかどや」を開催 じげ料理の伝承と下町PRを目的として実施。約100名参加。 ・2/16:「城下町米子のえーとご発見フェスタ」を開催 下町のまちづくり活動の報告及びまちづくり講演会等を実施。約200名参加。 ・3/9:「米子・下町検定」実施 下町の良さを知り、伝え遺してもらおうとを目的に実施。学生から高齢者まで、市外からの受験者も多数あった。 ・3/30:「第2回食のみやご祭in下町」を開催 じげ料理の伝承とまちかど広場、下町PRを目的として実施。 ・下町かわら版発行 毎月、地域情報を中心に1300部発行。(A3版両面)市役所、県など関係機関へはPDFデータで配信。 ・町屋通り連続性創出実験 町屋通りの店舗を中心にした、下町暖簾回廊計画(のれん、日よけ等)・下町花回廊計画(フラワーボット設置)による町の統一性創出の検討。 	食のみやご祭in下町・城下町米子のえーとご発見フェスタ・米子・下町検定・下町かわら版・空蔵の調査・町屋通り連続性創出実験など、多くのイベントを企画、また研究会を行なっている。 単一の取り組みだけでなく、色々な企画を立て、相互の連携を図りながらまちづくりを進める事により、新しい視点が開けてくるのではないか。

※じげ料理＝郷土料理

与えられる → 「自ら作る」 + 行政が応援する

まちの「産業・経済」の発展は、「まち・ひと・しごと」の自立型循環経済の育成にあり、市民が参加することが重要な要である。

4つのプロセス

①簡単にする

IT化・スマホの活用



②発信する

情報紹介・イベント紹介 各種情報の共有

産業・経済
創生

④応援する

行政・民間企業が場所・機器・技術を提供

③行動する

活動組織の確認・再編
ボランティア・NPO



3

推進・実現の方法

まちに新しい「NAGARE」を作る

テーマ： 祭り



1. 定期的な「祭り」の開催（毎月1回）
2. 市内数か所を会場とした持ち回り開催
3. 市民参加型のイベントにする
4. 商店街の協力（青年委員会、商工会議所）
5. 地域事業者の協力
6. 自治体による施設の提供・設備の提供

※ここでの「祭り」とは「文化・伝統」等はもとより、「マルシェ」や「フリマ」なども含めたイベントの総称として捉えるものである。

（それらの中から50年後に伝統と呼ばれるものが生まれることに期待したい）



●人の流れ、時代の、経済の・・流れ、市民の力でまちの流れを変える！！